

鶏肉の需給予測について

1 生産量

生産量の予測は、ブロイラー、成鶏、地鶏について、最近の生産量の傾向をもとに過去の月別生産量の実績及び鶏ひなふ化羽数を考慮して算出している。

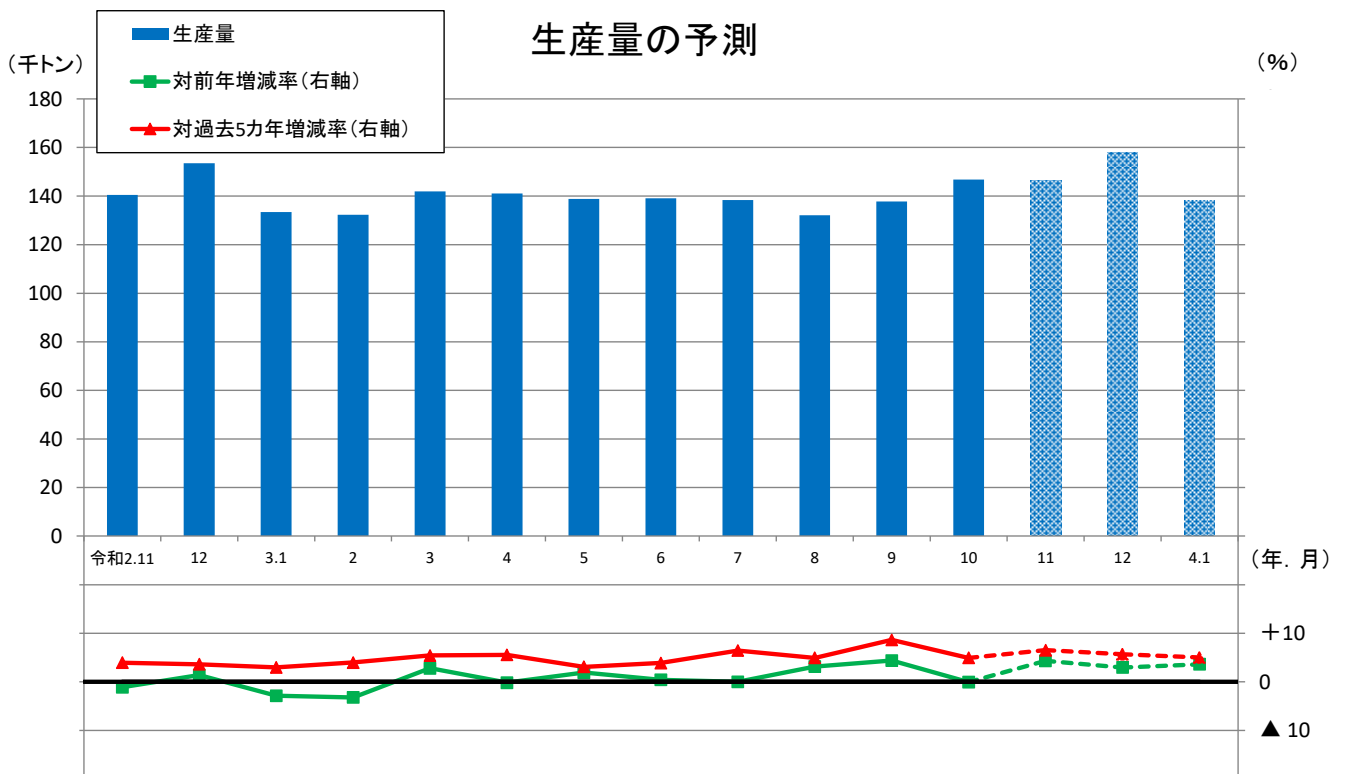
この結果、

- 生産量は、鶏肉生産量の約9割を占めるブロイラーの生産動向が大きく影響し、12月、1月ともに前年同月をやや上回ると予測する。
- 3カ月平均（11～1月）でも、前年同期をやや上回ると予測する。

(千トン)

	生産量
令和3年 11月（見込み）	146.5（104.3%）
12月（予測）	158.1（103.0%）
4年 1月（予測）	138.3（103.6%）
11～1月平均	147.6（103.6%）

注：（ ）は前年同期比、以下全ての表において同じ。



注：網掛け、点線部分は予測値

2 輸入量

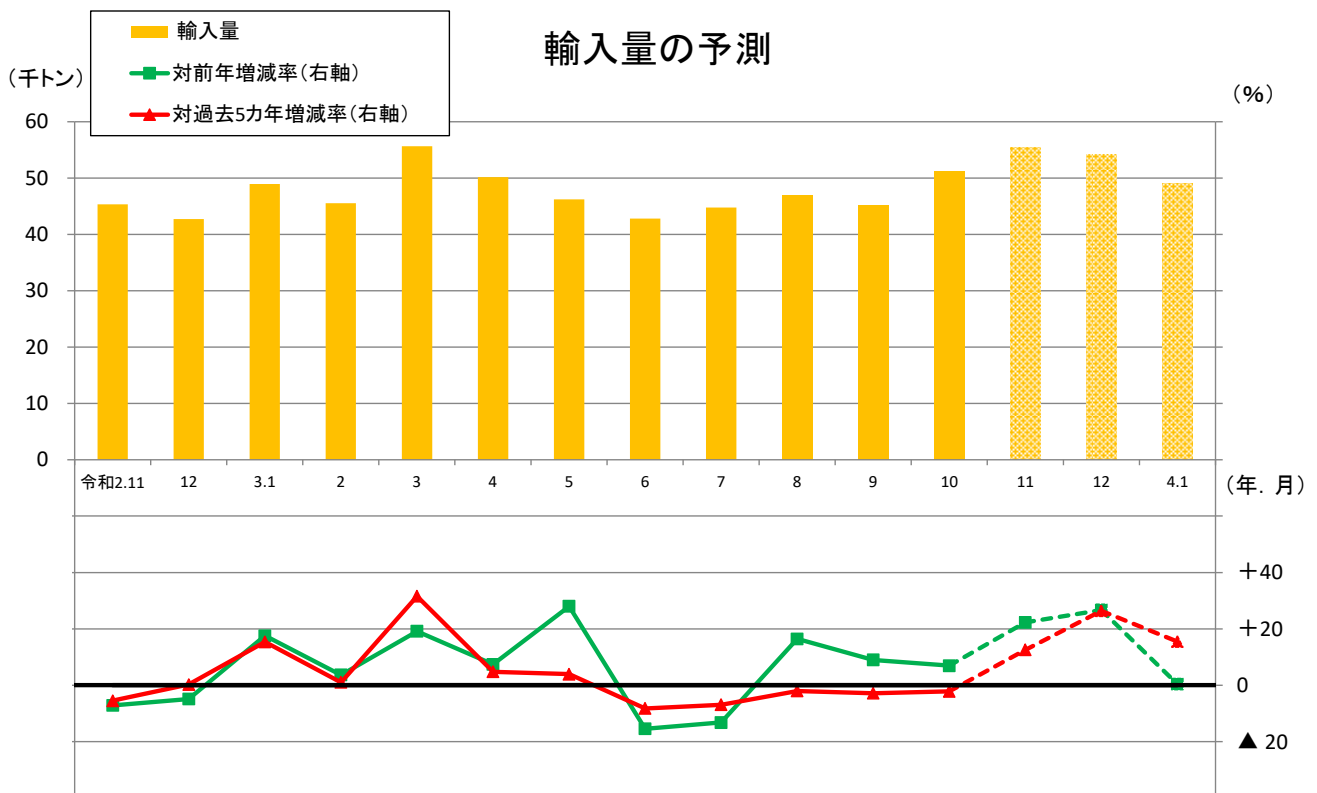
輸入量の予測は、国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会における輸入数量の検討結果を予測値としている。

この結果、

- 輸入量は、12月は、タイ現地での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響によりタイ産の輸入量が減少するものの、国内の輸入鶏肉在庫の減少等によりブラジル産の輸入量が増加すると見込まれることから、前年同月を大幅に上回る一方、1月は、前年同月並みと予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。

(千トン)

	輸入量
令和3年 11月 (見込み)	55.4 (122.3%)
12月 (予測)	54.1 (126.7%)
4年 1月 (予測)	49.1 (100.3%)
11~1月平均	52.9 (115.8%)



3 出回り量・期末在庫

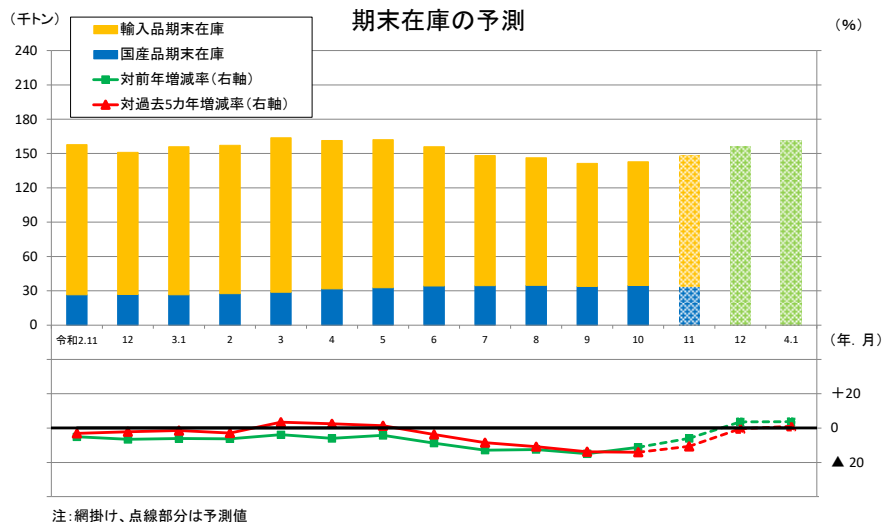
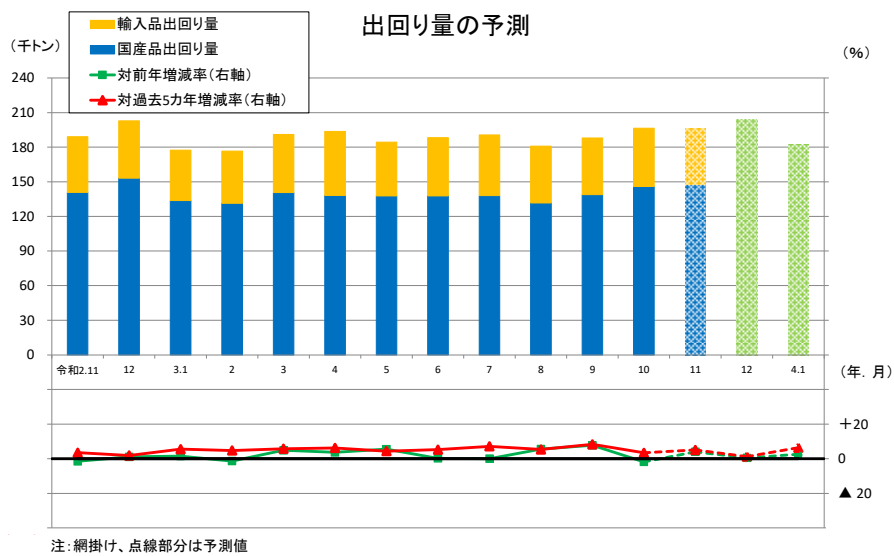
出回り量及び期末在庫の予測は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出した直近月の期末在庫及び前述の生産量、輸入量をもとに、計量経済学に基づく手法により算出している。

この結果、

- 出回り量は、12月、1月ともに前年同月をわずかに上回ると予測する。
- 期末在庫は、12月、1月ともに前年同月をやや上回ると予測する。なお、過去5カ年平均との比較では、12月はわずかに下回る一方、1月はわずかに上回る（12月：0.4%減、1月：1.0%増）と予測する。

(千トン)

	出回り量			期末在庫		
		うち輸入品	うち国産品		うち輸入品	うち国産品
令和3年11月 (見込み)	196.6 (104.0%)	48.9 (101.6%)	147.6 (104.8%)	148.2 (94.0%)	114.7 (87.4%)	33.6 (127.0%)
12月 (予測)	203.9(100.5%)			156.6(103.6%)		
4年1月 (予測)	182.2(102.7%)			161.7(103.7%)		



<予測手法>

- 生産量は、ブロイラーについては一般社団法人日本食鳥協会の集計結果、成鶏及び地鶏については機構が実施している国産鶏肉生産量等調査事業の調査結果を用いて算出した最近の生産量の傾向、過去の月別生産量の実績及び一般社団法人日本種鶏孵卵協会が算出している鶏ひなふ化羽数を考慮して予測。なお、必要に応じ、気候条件や家畜疾病の発生等を考慮し、補正を行う。
- 輸入量は、日本食肉輸出入協会の実施している国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会による輸入数量の検討結果。
- 出回り量は、直近月については、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出した直近月の期末在庫を当該月の生産量及び輸入量から控除して算出した出回り量をもとに ARIMA モデル（計量経済学に基づく手法）を用いて予測。
- 期末在庫は、直近月については、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出し、以降は、上記手法で算出した出回り量を当該月の生産量及び輸入量から控除して算出。なお、食肉等保管状況調査の調査対象倉庫は、毎年度見直している。

お問合せ先

独立行政法人農畜産業振興機構

畜産振興部 畜産流通課

高城、前田

TEL 03-3583-4302

FAX 03-3583-8714